

平成19・20年度  
地域ICT利活用モデル構築事業  
(採択:海士町 & 宮津市)

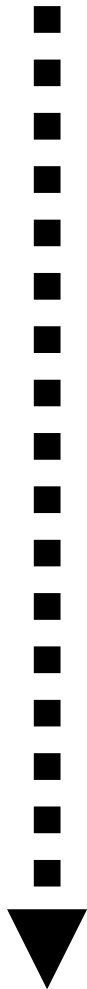
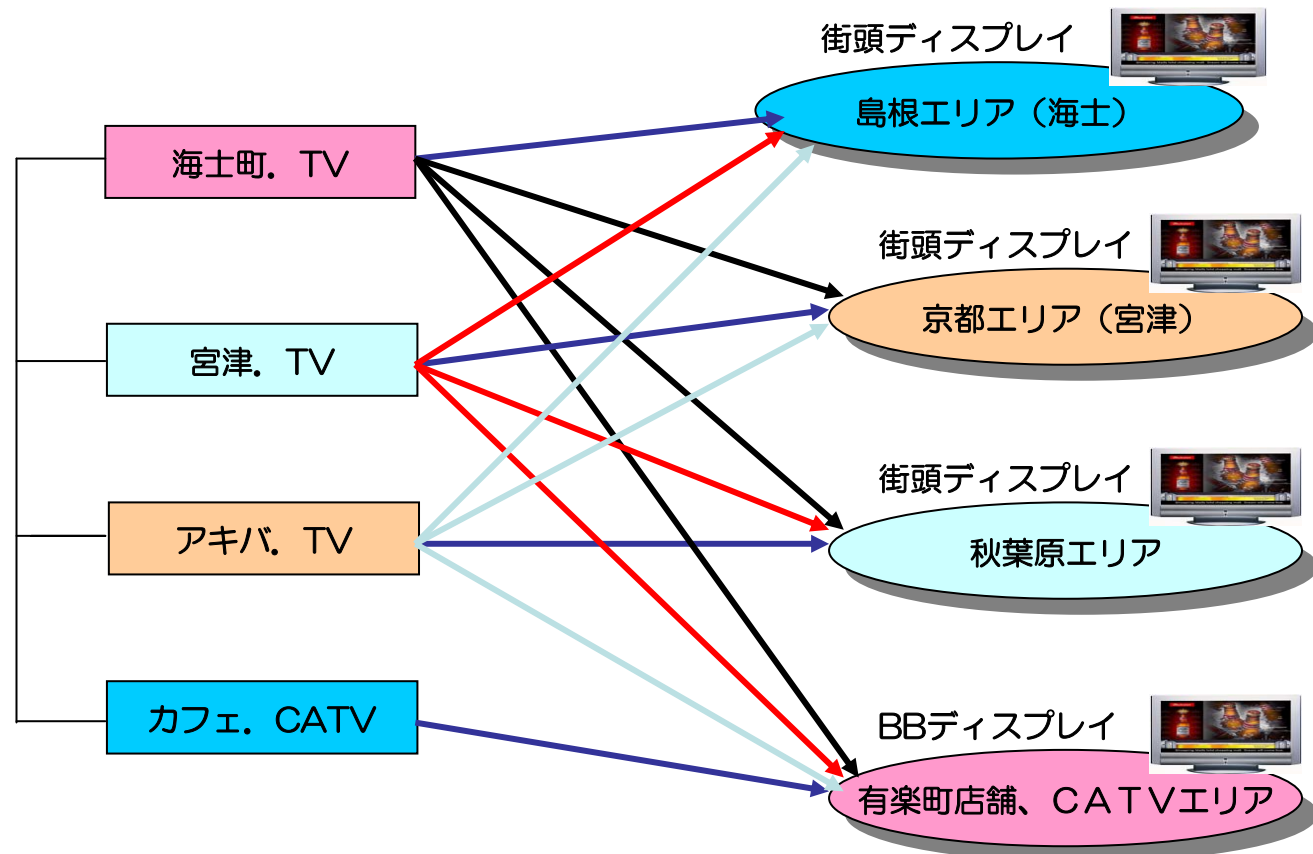
映像配信システムを利用した  
交流促進事業を展開

共感を伝える地域メディアの構築

# 共感を伝える地域情報メディアの構築

## 手法

- 街頭ディスプレイ：見ようという意思とは関係なく情報をプッシュで伝達できるという強みがある。
- ハイスペックな広告手法をOut of Homeで露出・経験させることにより、インターネットとのクロスメディア化が図れる。



# 効果

信頼できるファン  
のネットワーク化

【街頭ディスプレイ 60インチ前後】



【映像情報】

海士はIターンを中心に住民ディレクターは40人。映像データは100本にも達するが、編集が追いつかず、現在20本のコンテンツ完成。

宮津は、商工会中心に続々と住民ディレクター集う。3ヶ月で70タイトルのコンテンツを制作。ホームページでも公開:5千件ヒットも!

←文字・テロップ情報も可

- 住民の企画力、創造力の向上
- 地域コミュニティの醸成
- 文化風土を再認識→ふるさと意識の醸成

人の輝き

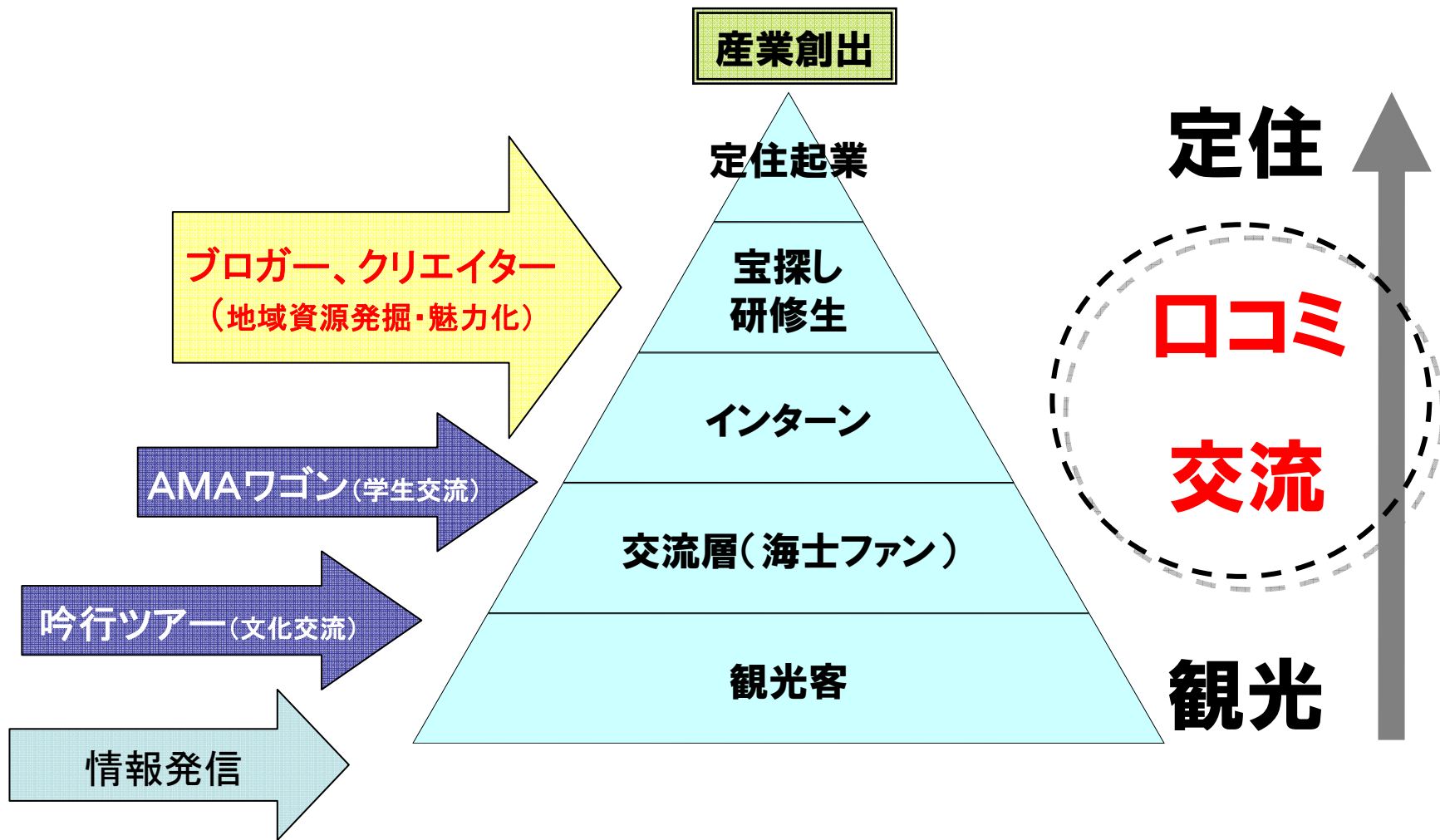
- 特産品の販売増加、安心産地情報
- 観光交流人口の増加、長期滞在型
- UIターン等定住人口の増加
- 広告情報等のIT起業促進

地域の輝き

ブランド力強化!  
地域雇用の発生!

【究極の目標】全国のお客様が **口コミ** で海士と宮津をPR!

# よそ者、ばか者、若者が地域を拓く。 クリエイターズ・コラボで情報発信！



## 【海士ブロガツアー】(H19.10月)

---

- 海士の風をありのままに
- ブロガーの感性と発信力を活用(口コミ)
- ブロガーのネットワークで海士ファン獲得

## 【海士アグリベンチャーツアー】(H20.3月)

---

- 第一次産業を肌で体験  
(過疎化、人口流出、後継者不足を現場で実感)
- 若者による海士のアグリをデザイン
- 第一次産業の魅力化の推進 → 起業を促す etc

## 【海士クリエイターツアー】(H20.7~8月)

---

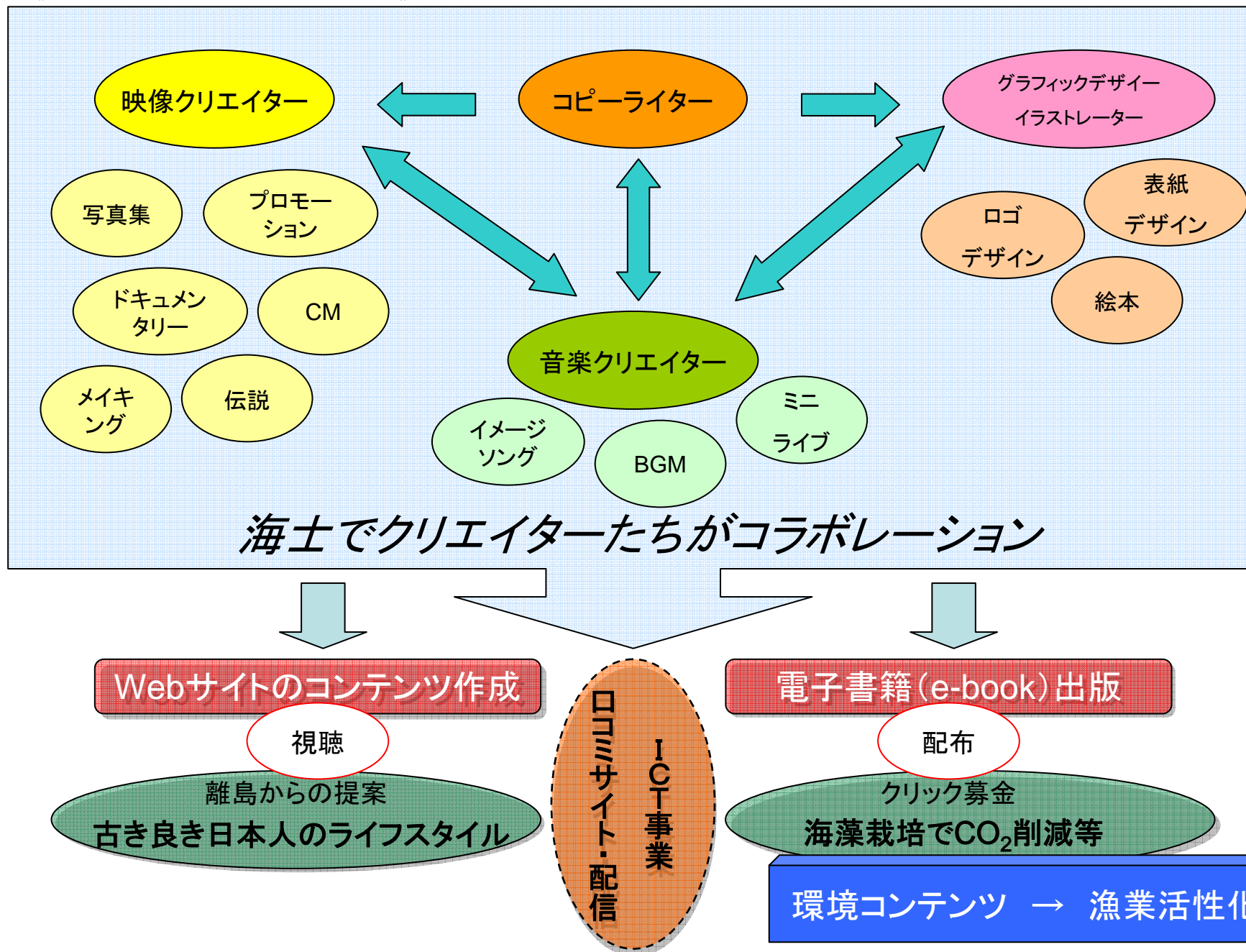
- 島の資源と文化、そして人の魅力を発信
- 離島というステージで都会のクリエイターを応援
- 地方を見直せば自然環境保護につながる提案
- 将来はクリエイターサミットを離島で開催？ etc

### バンタン

#### 離島活性化プロジェクト

この夏、バンタンの映画、映像のプロを目指す20歳~27歳の若者、計11名が離島「海士町」に滞在して、島の人と自然に触れ合いながらその魅力を探り、広く一般、特に「若者」を惹きつけるための「若者」の感性を活かした『海士プロモーション映像』を制作する。離島海士の不思議な魅力を映画映像のプロを目指す若者が解き明かす。

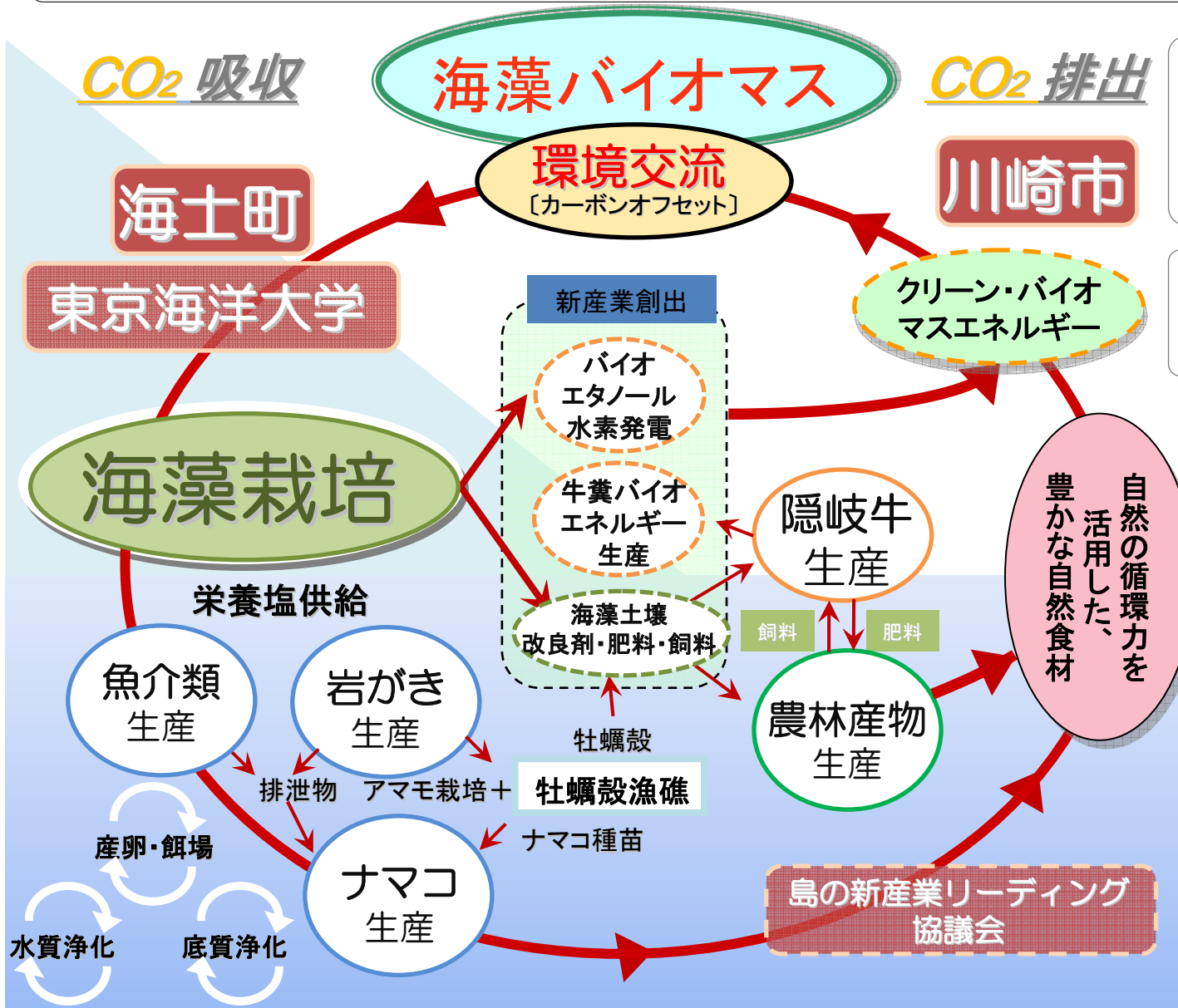
《クリエイターツアーのイメージ図》



# 「最後尾から最先端へ」～離島発！ 持続可能な国づくり (島の新産業リーディング協議会) — 島根県海士町 —

地域の現状と課題(提案の背景と目標)

温暖化による地球環境の悪化 → 島の資源まるごと活用 → 循環完結型・環境事業の創造 → 地球環境の保全



### ◆取り組みのねらい◆

①海洋と海藻を活用した藻場造成を幅広く展開することで、磯焼け防止といった魚類涵養効果と海域環境浄化効果の向上を図る。②海藻を活用したバイオマスエネルギー(エタノール・水素発電)を開発し、島で循環完結する環境社会を構築する。③輸入飼料に頼らない海藻飼料や海藻肥料の技術開発を行い自給率を上げる。④海藻がもつ温室効果ガス(CO2)吸収能力を活用して、都市自治体或いは民間企業との交流を通じカーボンオフセットを実現。地球環境保全に寄与しながら真に自立した持続可能な島づくりを目指す。これらを具現化するため、町内外の複数企業と東京海洋大学及び神奈川県川崎市が連携して協議会を設置し、事業の実施運営を行う。

### ◆H20主な取り組み◆

※沿岸における基盤的環境及び生態系の把握と循環型資源生産システムの構築(実施取り組み①)  
 ※海藻生産を基礎とする新エネルギー生産と町主要産業の循環型資源保全による生産の模索(実施取り組み②)  
 ※都市地域との人的交流による地球環境保全社会循環システムの構築(実施取り組み③)

### ◆H21年度以降の展開◆

※海藻バイオマス生産に向けた試験プラントの実証実験  
 ※海藻バイオマス生産のためのカーボンオフセットの導入促進  
 ※海藻バイオマス・ハード施設の整備、環境交流人口の拡大  
 ※岩牡蠣及びナマコの種苗及び生産量の拡大

### ◆実施スケジュール◆

H20年8月・協議会設立  
 H20年9月・実施項目具体的検討  
 H20年10月～・取り組み①～③を実施  
 H21年7月～・海藻バイオマス試験プラントの実証実験及び事業化に向けた費用対効果の検討  
 H22年5月～・海藻、ナマコ、岩牡蠣の生産拡大開始  
 ・都市とのCO2カーボンオフセット開始  
 H23年6月～・海藻バイオマス等ハード整備  
 H24年7月～・海藻バイオマス生産開始

### ◆取り組みの効果(地域再生像)◆

※藻場栽培による都市とのCO2カーボンオフセット(海藻面積5,000ha × 35t = 175,000tのCO2吸収)  
 ※岩牡蠣生産量増加 H20=20万個 → H25=50万個  
 ※ナマコの種苗生産 H20=0個 → H25年=20万個  
 ※海藻栽培 H20=0% → H25=100%  
 ※U・Iターン者による新規養殖漁業者の担い手 H19=4人 → H25まで30人を確保  
 ※海藻バイオエタノール生産量(海藻ベース) H20=0t → H25=100ha(2,100kl)  
 ※都市と地方の環境教育交流(海士を訪れる人) H19=450人 → H25=2,700人(6倍)  
 ※海藻養殖による貝類給餌効果、魚類魚涵養効果等による環境浄化の発生効果  
 ※環境視察の受け入れ H19=0人 → H25まで延べ3,000人の受け入れ

【地球環境保全 持続可能な国づくりの実現】

交流が生み出す 地域資源活用術

## LOCOMI = SMALL WORLD

人との出会いから、仕事生まれ、恋生まれ、旅生まれ・・・

出会いは偶然と思いませんか？

ロコミは、スモールワールドを提供します。

LOCOMI「ロコミ」は、

新しい旅を提案するガイドブック、

地域の文化と食を伝えるレシピ集、

あなたの旅行記

予告編であり

メディアネットワーク

そして、出会いを繋ぐウェブシステムです。

親戚群

海士

宮津

離島群

クリエイター

ファン

リピーター

インターン

ロコミ

LOCOMIでスモールワールドを体験してください。

交流が生み出す 地域力創造



# 岩ガキに隠岐牛、町と民間が結束

## 島

根県の海士町役場を訪れた。薄暗い庁舎に人影はまばらだった。応接室の窓は開放たれている。冷房は利いておらず、レースのカーテンがかりうじて真夏の日差しを遮る。

島根半島の沖合およそ60kmに浮かぶ群島、隠岐諸島は4つの町村から成る。「中ノ島」を域内とするのが人口およそ2500人の海士町だ。

応接室の壁には、1枚の日本地図が張られている。一見すると、どこか地図だか分からない。一般の地図と異なる

り、南が上に、北が下に描かれているからだ。海士町の山内道雄町長は、南北が逆転したこの奇妙な地図を眺めていると力がわいてくる。「日本列島も大陸に対しては離島なんですよ」。

1950年には7000人弱いた海士町の人口は減り続けている。65歳以上の高齢者が人口に占める割合を示す「高齢化率」は39%と全国平均のおよそ2倍。一方で14歳以下の人口率「年少人口率」は10%余りと小さい。

少子高齢化社会の到来が予言される日本。その先端を進むのが地方であり、

格差列島

「切り捨てられまい」最終回

# 離島から始まる日本再生

都市と地方の格差拡大が止まらないニッポン。「切り捨てられまい」シリーズ最終回の舞台は離島。島国・日本の中でも離島は最も劣悪な条件下にある。社会インフラの不備、産業の衰退、過疎化、高齢化…。そうした苦境から立ち上がろうとする島がある。補助金や公共事業に頼らない再生手法は斬新だ。乾坤一擲のチャレンジに地方再生の光明を見た。  
(菅原 雅信、飯村 かおり、大竹 剛、池田 信太郎)

岡山県 笠岡市 笠岡諸島 P.144

7つの島が手を結び名物弁当作りに着手。その首尾は？

島根県 海士町 中ノ島 P.141

給与の半額返上で働く町長。不転職の決意に島が動いた

愛知県 一色町 佐久島 P.147

少ない予算は心意気でカバー。島全体が美術館になった

大分県 姫島村 姫島 P.150

車えび養殖に賭けた村長2代。日本一復活へ、夢よ再び

日経ビジネス 9月24日号



# 小さな島で日本一の教育を ～最先端の人づくり～



# 「海士」 「海のサムライの志」

小さな島に持続可能な社会と  
まちづくりのモデルを創る。

そして  
この島から日本を変えていく

**ピンチはチャンス！  
ハンディキャップを  
アドバンテージに！**

---

**自立に向けた挑戦に  
終わりはありません。**

**あま  
皆様、是非いちど海士にござらっさい！**